

腎生検とは？

腎臓の病気を調べる方法として、尿検査、血液検査、超音波検査、CT、MRI、シンチグラムなどの検査があります。しかし、実際に腎臓で何が起こってどうなっているのかを調べる方法は、腎臓の組織を直接見るほかはありません。その方法として腎生検があります。背中から細い針を腎臓に刺して組織の一部を取り出し、顕微鏡で観察します。小さい子どもは、全身麻酔をかけて手術室でお腹を開けて腎臓を直接見て組織を取ることもあります。それにより、病気の診断や障害の程度がわかり治療方針が決定されます。

大人と違い子どもの場合は、安静を保つためにお薬で眠らせて検査を行います。針を刺すところにも痛み止めの麻酔を行い、超音波やX線で腎臓の位置を確認しながら生検用の針で組織を取ります。取り出した組織はいろいろな方法や染色で処理され、顕微鏡で観察し診断します。腎生検を行った後は、腎臓から出血するのを抑えるためにベッド上で安静にする必要があります。しばらくは出血の恐れがありますので激しい運動や重いものを持ちたりすることは避けてください。